

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3290400187		
法人名	社会福祉法人 やまゆり		
事業所名	グループホーム せせらぎの家		
所在地	島根県出雲市佐田町一窪田118		
自己評価作成日	平成22年10月28日	評価結果市町村受理日	平成23年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaiogosip/Top.do">http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaiogosip/Top.do</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市萩村町274-2		
訪問調査日	平成22年11月17日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

自然豊かな環境に立地していることで、四季折々の表情を身近に感じ取ることができます。入居者様の思いを第一に考え支援を行っています。調理や掃除など長い間培ってきたことを役割として発揮していただくことで残存機能の活用、自信の回復に繋げられるようにしている。近隣の方との関係は良好で交流会や体操教室など実施している。最近では子供達が本の読み聞かせに来るようになったことで、入居者の皆様も自然と笑顔が出るようになってきた。大人から子供まで多くの方がホームの中に入り楽しく生活が出来るような取り組みを常に考え実践している。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

一地域一法人で介護事業所を運営されている法人であり、前法人時代から地域福祉の核を担い、地元の子供からお年寄りまで幅広い交流を育まれている。又、長年、地域をあげて介護予防にも尽力されている。ホームを開放して地域住民も参加されての健康体操は毎月恒例となっており、高齢ながら元気に過ごされている地域住民や利用者の姿がみられる。さらに今年度は、地域の子供達が自主的にホームを訪れて音読を行うようになり、利用者との触れ合いが深まっている。継続していく力と改善や新しいことへ取り組む積極的な姿勢を兼ね備えた事業所である。隣接する障害者自立支援施設の入居者と共に、地域の住民として温かく見守られている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 利用者ご 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念 地域の中で安心して住める居場所となるように と年度始めに全スタッフで話し合い決めている。ミーティングを通して共有を図っている。	毎年、年度初めに全職員で理念を見直し、一年の目標を定めている。今年度は前年度に引き続き「笑顔」を目標に掲げ、地域の中で安心して笑顔で住める居場所となるように、利用者、家族、地域の方、職員の笑顔を大切に取り組んでいる。又、玄関への掲示や広報誌にも目標を掲載し、周知に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	毎月体操教室を開催し、近隣の方と会える機会を作っている。また夏には交流会を行い、いろいろな世代の人と交流している。	広報誌は、年2回管理者が地元自治会全戸に配っている。毎月恒例となっているホーム主催の体操教室の案内は、職員と利用者が一緒に配り、近隣の方にも参加頂いている。又、事業所の納涼祭には、大勢の家族連れが参加されている。自治会のとんど祭りや夏休みのラジオ体操、近隣宅で野菜を頂いたり、一緒にお茶を飲んだり、日常的にあらゆる世代と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流の場の提供、訓練指導員による体操指導を毎月行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では報告だけでなく、避難訓練や体操、食事会など実際に体験しホームの雰囲気を感じ取れるようにしている。会議の内容はミーティング時に確認し、サービスに生かしている	今年度は、職員がDVDにまとめた利用者の一日の生活の様子を出席者に見て頂き、生活の雰囲気や利用者の表情などから、理解を深めて頂く事が出来た。今後は出席されなかったご家族にも会議の報告書を送付する予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入退去の時などは、本庁だけではなく佐田支所にも報告を行っている。	市のグループホーム協議会や地域の連絡会、研修会等に参加している。入退去の際は、地元支所にも報告し、担当者とは相談出来る機会を設けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、また、ホーム内研修で全スタッフが理解できるようにしている。	職員は法人全体をはじめ、事業所内でも学ぶ機会を持ち、施錠する事の弊害を十分に理解している。日中は居室や玄関に鍵を掛けず、利用者の自由な行動を見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、また、ホーム内研修で全スタッフが理解できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホーム内研修で勉強を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面接などで話せる機会を確保している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族交流会などで意見を聞けるようにしている。	年2回、家族交流会が行われ、家族も一緒に外出を楽しむ中で信頼関係を構築し、意見を引き出している。家族へは、隔月で利用者の様子を知らせる「おたより」を、又、年2回「広報誌」を発行し、家族と地元自治会へ全戸配布して、理解を深めている。事故報告書で、家族に行った説明や話し合った改善策などが記載出来るように、書式が見直されており、事業所の前向きな姿勢が窺えた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から話せる関係作りをしている。 年2回の人事考課の面接時に運営についても意見を求めている。	日常から、職員が意見を言いやすい関係を築いている。又、全職員が半年ごとに、自己評価や面談を行っている。近隣の事業所との交流など相互に成長し合える関係づくりなどもあり、職員の能力向上と情報の共有化に努めている。管理者の夜間勤務や法人内他施設との異動は極力無いように配慮されてきている。	運営者をはじめ、職員の育成の重要性を十分認識し、計画性をもって工夫をされていますが、管理者不在時の判断や緊急対応等にはやや不安が残ります。更に、業務分担していく事で、職員の自覚や意欲を育てて頂きたい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を通して課長との会話の機会を設けている。介護職員処遇改善交付金を全職員に出している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症の実践者研修への参加。 他施設との交換実習を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ミニグループホーム連絡会を作り勉強会や交換実習を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にはスタッフの勤務体制を厚くし、できるだけゆったりと対応できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には必ず自宅へ訪問し、話を聞くようにしている。家族様がリラックスして話せる環境で面接するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接時には地域の資源を紹介し、できるだけ自宅で生活できる方法を一緒に考えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除、調理など助けてほしい、手伝ってほしいと声をかけ一緒にやってもらっている 毎日の生活の中で利用者さんが経験されてきたことを教えて頂き、生かしている 洗濯物干し、たたむことなど出来ることはやってもらっている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の面会時にはゆっくり話せる場所を用意し、日ごろの様子等伝え、安心していただけるような話題を提供するようにしている 家族会などで情報交換をすることで、支え合う関係作りをしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り、買い物に出かけたり、地域の行事に参加し、地域の一人として関係を築く 今まで生活して来られた地元での行事などに参加していただき、なじみの方に会えるよう支援している	利用者ごとに馴染みの場所へ行く「ふるさと訪問」では、自宅の草取りや墓、地蔵参り、温泉等、馴染みの場所や店へ出掛けている。手紙や電話などでも馴染みの関係が継続するように支援している。又、事業所の催しや地域の行事に参加する事で顔馴染みの方と出会えたり、職員は気軽に立ち寄りもらえるような雰囲気を心掛けており、近所に住んでいた方や親戚の方なども訪れられている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方同士一緒に仕事してもらったり、一緒にテーブルについてもらう 利用者さんの間に入り、その場の雰囲気が盛り上がるよう努めている 出来るだけ一人ぼっちにしないよう同席し、話しながら作業を行ったりしている		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても、必要であればこれまでの生活状況等についての情報をご家族や施設へ提供します			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	外出希望があれば職員で相談し、実行に移す 買い物時、食べたい物の確認をする 得意な作業や、余暇の過ごし方はほぼ把握できているので、その都度声をかけている 自宅に帰りたい、読書がしたいといった希望があれば家族さんの意向を取り入れながら支援している	本人の意思をゆっくりと確認し、様々な場面で、利用者の思いを表出できる機会を作っている。以前習っていた習字や、読書がしたいと話された方には、ご家族の協力を得ながら、出来る限り利用者の願いが叶えられるように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書をしっかり確認する 入浴時等二人になれるときに昔の話を聞く 家族さんに聞く			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	初めから出来ない決めつけず、やってみよう また日によって違うことも把握するようにしている 出勤時のあいさつの際の表情や顔色、また記録を読むことで現状の把握に努めている			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	全職員でモニタリングを行っている。	定期的にケアカンファレンスを行って、本人や家族の意向、職員の気づきや最新情報を集め、現状に合ったプランに見直している。家族には、面会時や自宅を訪問してケアプランを提示し、意見を伺っている。又、支援内容が変わった時は、随時、担当者会議を開き、見直しを行っている。職員間で共有する書類は、すべて確認のサインを残すように改善されていた。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日頃の生活の状況を十分把握できるように話し合いの機会を作り情報を共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診などは柔軟に対応している。 個別になじみの場所に行くふさと訪問をしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のサロンなどに参加している。音読ボランティアで地元の子供達が来てくれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は入居前のかかりつけ医を継続している。	地元の利用者が多く、入居前のかかりつけ医に往診をお願いされる方が多い。在宅療養支援診療所の医師とも連携を密にし、いつでも来て頂ける体制であり、利用者、家族、職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から気楽に相談できる関係作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	スタッフ全員が定期的に面会に行くようにしている。相談員とも良好な関係作りをしている。なるべく早く退院してもらうようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアに向けては必ず家族、主治医と一緒に話し合い方針を決定している。覚書を作成し対応するようにしている。	入所の際、事業所で出来る事、出来ない事を家族に伝え、了解を得ている。契約時に、法人施設への入居申し込みをされる方が多いが、その都度、家族や医師、職員とも話し合い、納得された上で対処している。条件が整えば事業所での看取りも考えており、終末期の覚書も作成されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急講習会を開催し緊急時の対応訓練をしている。また、たびたび運営推進会議の中でも議題としている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域と一緒に避難訓練や防災訓練を行っている。 大雨のときには夜勤者を増やすなどの体制を作っている。停電時用に発電機を設置している。	過去の水害を受け、地域をあげて防災訓練が行われており、火災だけでなく、大雨、河川増水による避難訓練も行っている。水害の教訓から、大雨の日は夜勤者を増やしたり、停電の経験から発電機を設置し使用訓練も行っている。消火訓練では、利用者も実際に消火器を持ち体験された。今月、水害の想定で、実際に安全な場所へ車で避難する訓練も予定されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとり性格が違うので声のかけ方も工夫しているが、傷つけないような声掛けには努めている 留守の居室に入るときには断わりをし、居室に入るときはノックをして入るようにしている	個人情報の利用目的や取り扱い、家族に説明した上で、書面で同意を得ている。会議や勉強会で職員の意識を統一し、利用者一人ひとりにあった言葉かけや対応がなされている。プライバシーに配慮した入室や排泄支援についても、ケアが統一され、入浴は同性介助にするなど配慮し、利用者の尊厳が守られている。	一地域一法人で介護事業所を運営されている法人であり、利用者も職員も同じ町内、近隣の方が殆どである。個人情報の取り扱いには細心の注意が必要です。職員への指導を重ねてお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	服、席など選べる方には確認をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホールの中でも居心地の良い場所と過ごし方があるのでその場所に移動していただく		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の乱れや整髪をチェックをし、衣服もいつも同じものでないよう注意する		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物と一緒にってもらったり、食材を見てもらい調理方法を教えてもらったり、それぞれできることを手伝ってもらい 楽しみに待てるよう献立表を書いてもらい、皆さんにお知らせしている	台所の作業台は低めに設計されており、利用者が使いやすく、職員と一緒に献立、調理、片付けまで行われている。献立は法人の管理栄養士のアドバイスを受けている。朝、夕は隣接する障害者自立支援施設の入居者も一緒に食事をし、双方にとって良い関係が継続されている。職員は、利用者と一緒に食卓を囲み、弁当や利用者で作った副食、手作りオヤツを味わうことで、話題も広がり、和やかに食事をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材は偏りのない様いろいろな物を買うようにし、それぞれが工夫して献立を考えている 食事量、水分量を確認記入し、水分の取りにくい方には、好みのものを小まめに取っていただくようにしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	昼食後、夕食後の口腔ケアをご本人に合わせに行っている 週に2度は洗浄剤での洗浄を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認し、一人ひとりのパターンに合わせてトイレ誘導を行い、必要なら介助を行う また、行きたい素振り、態度を見逃さず、トイレに案内する	本人が紙パンツを希望される場合は無理強いはしないが、日中、出来るだけ布パンツで過ごされるように、タイミングを見計らい誘導するなど、自立に向けた個別の支援が行われている。毎朝ヨーグルトを食べたり、リハビリ体操など、出来るだけ体を動かして頂く事で便秘予防に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員で統一し、朝食後にヨーグルトを食べていただいている 排便チェック表を確認し、便秘と思われる場合は、センナ茶を服用して頂いたり、下剤を服用して頂く		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回ないし3回の入浴が出来るように誘っているが、ご本人の良い時間に入浴してもらっている 好みの湯加減にし、歌を歌ったり、話をしたり楽しい時間となるよう工夫している	利用者の希望に応じた時間での入浴に努めている。温泉に行きたいという利用者の希望で、地元温泉施設の協力を得て、閉館後に、介助の職員と一緒に入浴させて頂いた。	事業所には一般浴槽しか無い為、重度化に向け、またぎが困難な方への入浴支援の方法を検討していく必要があるでしょう。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	朝の弱い人もおられるが声かけし、目覚めたら食べてもらう 眠気が強い場合は、少し眠られることを勧めたり 疲れの見えるときは休憩してもらっている また午睡も各々好きな場所でもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイル、緊急持ち出しファイルにて現在の服薬状況が分かるようにしている。 内容の変更時には連絡ノートに記載し全員が分かるようにしている。 また服薬はチェックシートにてもれのなようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の中でそれぞれの役割(調理、掃除、買い物等)の維持に心がける。 気分転換に散歩を進める。 五目並べ、パズル、読書など各々の好きなことを勧めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のみなさんと協力しながら出かけられるように支援している	行きたいという希望があれば、管理者と相談し可能な限り対応するようにしている。	日常的に近くのスーパーに、利用者と一緒に食材や生活用品の買い出しに出かけている。「ふるさと訪問」と称し、馴染みの場所へ個別の外出支援も行われている。帰宅願望のある利用者は、日に何回も近所を歩かれるが、職員や他の利用者、併設施設の入居者をはじめ、近隣の方々の温かな見守りで自由に出掛けられている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額の管理ができる方には、家族様の了解を得たうえで自己管理をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望のある方には電話対応をしている。年賀状のやり取りをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に整理整頓を心がけている季節の花を飾って落ち着く雰囲気を作っている。	明るい日差しの中、懐かしさを感じさせる小物、季節の花や絵も飾られており、居心地良い空間になっている。和室にはコタツが置かれ、談話の場となっている。利用者は思い思いの場所で、裁縫や五目並べ、新聞を読んだり、横になるなど自由に過ごされていた。今年度の避難訓練で消防署より助言を頂き、屋外へ避難しやすいように直ちにソファの配置を変更された。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや長椅子を置くことで思い思いの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活用し、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真などの掲示は行っているが、利用者さんの使い慣れた物はあまり置いていない	利用者が、自宅で使い馴染んだ家具や大事な物を持参して頂くように家族に働きかけている。居室掃除や衣類の整理は、居室担当職員が、利用者と一緒にしている。夜間のトイレ介助に鈴を使用したり、転倒防止のために、家具の配置や引き戸の開閉幅を調整するなどの工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒が無いようにドアの開閉の幅を狭めている。 またベッド、筆筒を入口近くに置き、つかまり歩きできるようにしている。		